記事掲載

相次ぎ小売新店オープン

名古屋の酒類卸・酒販店

名古屋地盤の酒類卸や業務用酒販店が９月下旬、小売部門で相次ぎ新店をオープンした。秋田屋は９月25日、グループ直営の物販店「Ｔｈｅ蔵」を全面改装し、新たに「リカーショップＫＵＲＡ」と「チーズショップ　プティプレリ」の複合型店舗を開設。サカツコーポレーションでは同28日、ワイン専門店「ＣＯＲＫＡ（コルカ）　錦」を新規オープンした。ともに名古屋有数の繁華街である錦・栄エリアでの業務用ニーズを中心に顧客開拓を進めていく考え。併せて、酒と食のペアリングを提案する情報発信拠点としても、店舗の活用を図っていく。

サカツコーポレーション

幅広い価格帯で約450品目をラインアップ

ワイン専門店「コルカ」

錦エリアのシェアアップ目指す

一方、サカツコーポレーションの「コルカ」は、同社の小売店部門「アルコ」事業部が手掛ける新店舗。「近隣になげていきたい」（牧野充宏社長）という。

店舗が既にあるが、12坪と狭小なため在庫が十分に置けずチャンスロスも見られた。『コルカ』ではバックヤードも広く取れるので、両店共通でしっかり在庫が持てる。錦エリアのシェアアップ目指す。

店舗面積は28・5坪、営業時間午後３時～11時、定休日＝日曜祝日。品揃えは約４５０アイテムで、ＤＲＣ・５大シャトーといった高級ワインやスパークリングから低価格帯まで幅広くラインアップ。

オープニングの目玉としては、日本初上陸となるシャンパーニュ「ヴィエイユフランス」を販売。特徴的なアップルポトル（白・辛口）」も用意する。近年展開強化を図っている飲食店部門のノウハウも生かし、今後はワインとフードのペアリング提案も徐々に行っていければとしている。

また、有料のテイスティングカウンターも設け、５種類ほどを月替わりで提供。軽いおつまみ

売上目標は月商７００～８００万円。「お客さまの声を聞きながら、よりご満足いただける店にしていきたい」（亀谷真奈代店長）とのことだ。